

1 開会(15時30分)

みなさんこんにちは。本日は公私ともにご多用の中、ご参集いただきありがとうございます。ただいまから、第2回豊岡市部活動の在り方検討委員会を開会いたします。

はじめに資格確認です。委員名簿7番の飯塚委員がご都合のため欠席です。ただいま、委員の過半数の出席をいただいております、本日の会が成立しますことをご確認ください。

2 挨拶

(1) 西田委員長

みなさんこんにちは。お忙しい中、第2回豊岡市部活動の在り方検討委員会にご出席いただきありがとうございます。西田清と申します。第1回委員会で委員長に選出されましたけれども、体調不良で欠席をさせていただきました。大変申し訳ありませんでした。私は豊岡市スポーツ協会の理事長をさせていただいております、競技別協会では卓球の方をさせていただいております。いまま現役でしております、昨日豊岡市スポーツフェスティバルに出場いたしました。部活動の関係では日高西中の卓球部に月に数回ボランティアとして、顧問の先生の補助をさせていただいて、40年以上になります。本日の会議は休日の部活動の地域移行について、どんな課題があるのかを整理をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

(2) 嶋教育長

みなさんこんにちは。3か月前に第1回の委員会をしました。それから国や県の動きは残念ながらほとんどありません。そうはいいまして政策と予算は一体のもので、いよいよ10月に入って予算編成期ですから、来年度この部活動についてなんらかの動きがあれば、予算で反映されるでしょうから、少し期待をしながら見ていこうかなと思います。

しかしながら、この部活動の状況は国や県の動きとは反対にどんどん進んでいます。例えば出石中学校の女子バレー部。3年生が引退したのですが、今のチームは去年秋の新人戦但馬大会で優勝、そして県大会で3位になりました。県で3位になることは但馬からはなかなかないこと。この夏に行われました総体でも但馬で優勝しました。しかしながら3年生が6人引退した後はチームが成立しない、もう後3人しか残っていない、部活動が成立しません。期待して入ってきている子たちがいますから、その子たちをどうするのかというと、浜坂中学校との合同チームにすると。かなり距離がある。そのような状況が今起きています。これからもどんどんそのようなことが起こってくると思っておりますので、できることを私たちはやらなくてはいけないということです。

3か月の間に市としては1つ大きな動きがありました。市内の中学校の生徒会を集めてリーダー研修会をしました。この後少し詳しい報告が担当からありますが、生徒はみんな分かっていました。部活動が人口減少で成立しなくなることをどうしたらいいか心配していましたし、顧問が変わることについても私たちと同じレベルの課題意識を持っていました。先生の働き方改革についてもちゃんと知っていました。これからも生徒の声に耳を傾けながら、彼らにとっていい部活動になるように考えていかなければ

ばならないと思います。今日は神戸新聞の丸山記者も来ていただいています。彼女が取材をしてくれましたので、今日はその記事がありますから、足りないところは彼女に聞いていただければと思います。

そのようなことで情報提供することはたくさんではありませんが、どんな方向で行くかについて少しずつ少しずつ焦点化していきたいと思いますので、しっかりご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) 中学校生徒会リーダー研修会「わたしたちにとって部活動とは」について

— 資料に沿って説明 —

(西田委員長) ただいまの報告につきまして、皆様から質問などがありましたらお願いします。

(10番 田中委員) 部活動の主役はあくまでも生徒だと私は思っています。今回大きな目的は先生方の働き方改革があるかと思うのですが、やはり生徒たちが活動するのが部活で、生徒たちが主役であると思っていますので、生徒たちがこのリーダー研修会で発言した意見や考え方を踏まえて、豊岡市もいい方向性を見出していただけたらと思います。

(2) 但馬・丹波地区 部活動地域移行連絡協議会の開催について

— 資料に沿って説明 —

(西田委員長) いまの説明について質問がありましたらお願いします。次の協議に入ります。

4 協議事項

(1) 休日における地域移行・地域連携について

(西田委員長) 休日における地域移行・地域連携について説明をお願いします。

(事務局) 会議冊子のスライド8です。前回でもお示しした国がイメージしている休日の地域連携・地域移行の様子です。左上①は市町がスポーツ・文化関係団体や事業者と連携して、地域クラブに指導者を派遣し、生徒は地域クラブで活動をするというものです。右上②は総合型地域スポーツクラブや民間事業者から地域クラブに指導者を派遣し、そこに生徒が参加するというものです。国はこれを進めたいのですが、直ちにこのような体制を整備することが難しい場合として、下の部活動指導員を中学校の部活に派遣して、生徒は中学校の部活動をこれまで通り行うというものを示しました。豊岡市としてまずどれからスタートしていくかをはっきりさせたいと意見が散ってしまいますので、まずはこの点について協議をしていただきたいと思います。

(西田委員長) いまの説明について、質問や意見をお願いします。

(10番 田中委員) 地域クラブに生徒が通うということですが、豊岡市においてこの地域クラブの受皿があるのでしょうか、それができない場合は下の地域連携ということですが、これにしても指導者がいるのかどうか。下の右側の合同部活動が一番現実的ではあると思うのですが、豊岡市においては仮にバレー部は南中ですとか、卓球部は西中ですとかとなると、送迎の時間が発生したり送迎を誰がするのかという問題が発生したりします。そのあたりについて教えてほしいです。

(事務局) これまでの準備委員会や第1回在り方検討委員会で皆さんに出していただいた意見、こちらが得ている情報から考えると、受皿となる地域クラブは数が少ないうえに広い市内をバランスよくカバーすることはとても難しいです。下の地域連携の方が豊岡の実態に合っていると考えています。指導者がいるのかとなると、前回関係団体の皆さんがおっしゃったように非常に難しいと思います。指導員をどのように集めていくかについては、この後の協議でご意見をいただく予定にしています。送迎などの課題については、方向性が決まってから1つ1つ課題を検討していくことを考えています。

(文化・スポーツ振興課 原田課長) 市内には民間で運営されている競技団体が16くらいで、陸上、空手、硬式野球、バレー、サッカー、卓球などがあります。種目が偏っています。小学校以上を対象に募集をしていて競技活動をしている市内の団体はこのような状況です。

(10番 田中委員) 来年の9月くらいからスタートする予定のようですが、まずは拠点校・モデル校として、実践を積んで、先生方の負担軽減効果、生徒たちの意見、指導者から見た取組の課題、保護者の意見などを踏まえて、さらに課題を整理してから全中学校でスタートという方向ではどうでしょうか。

(西田委員長) いま休日の地域移行について国が示しているのが①②、それができない場合は③の地域連携でどうでしょうかということ、田中委員が今おっしゃったことは、これをどれかに決めておいてから、どうするのかという話になると思いますので、いまの提案はあとでお話しさせてもらうということでもよろしいでしょうか。

私から1つ質問があります。画面右側に総合型地域クラブとありますが、これはいったいどういうものなのか、スポーツクラブ21との違いは何なのか教えてください。

(文化・スポーツ振興課 上田係長) 兵庫県はスポーツクラブ21を総合型地域クラブと呼んでいるのですが、実際のところはクラブマネージャーのような資格を持った人がいるなど、資格があつてチェックを受けた団体となるので、いま豊岡ではこの総合型地域スポーツクラブは無いというのが、現状になります。

(西田委員長) いまある3つの案の中では、3つ目の部活動指導員を学校部活動に入れていくのが一番現実的かなと思いますが、いかがでしょうか。校長先生、現場としてはいかがでしょう。

(8番 能登委員) 中体連の代表でありながら校長でもありますので両方の立場でお話しします。さきほどから働き方改革が前面に出ていますが、まずは少子化で継続が難しくなっている部活動、スポーツ

活動、芸術文化活動をこれからも子どもたちが続けていけるような環境を地域で作っていきましょうというのが一番のねらいです。そこにプラス、教員の労働問題もあるわけですが、教員はわずかな手当でこれまで献身的にがんばってきてくれています。大事に部活動を継続して育ててきた、ある意味、日本の大事な学校文化の1つだと思います。ただ未来永劫これまでの体制では続けていけないというのは目に見えているので、いまこういうかたちになっているわけですけれども、子どもたちが目の前にいますので、いきなり地域クラブをつくりました、はいお願いしますというわけにはいかない。丁寧に送り出して引き継ぎをしていかないと、何年もかけてやっていかないとできない問題だと思っています。それまでは、日曜日にやりたくないからやりません、という教員はほとんどいないと思います。目の前の子どもが大事ですから子どものためにはやると思うのですが、いまの制度のままだと今後破たんすることを思えば、まずは、地域連携からのスタートなのかなと思います。ただし、先ほど出石中の女子バレーの話がありましたが、野球も今かなり深刻な状況です。豊岡南中も足りませんので竹野中と合同チームを組んでいます。日高西中も但東中と合同チーム、養父市の4中学校がそれぞれ合同チームを組んでいます。但馬の新人戦がはじまっていますが、合同チームが4チーム、つまり8校が人数不足で出られない状況になっています。そういうことを考えると図の下の③、地域連携と合同部活動を並行して進めていくことが必要かなと考えています。指導する教員に岩井先生がアンケートを取っていますのでお願いします。

(9番 岩井委員)現場の声としては、先ほどから出ている③-1、③-2でいくイメージの方が強いという意見をもらっています。その中で懸念されているのが、少ない部員でどうやって部活動を継続していくのか、ただ逆にまったく③-2にしてしまうと今度は逆に人数が増えすぎて、中学校から始めた子どもが試合に出られないというような懸念もあります。③-1、③-2の線引きは難しいと思うのですが、競技によっては③-1で、ある競技によっては③-2の方がいいという状況があると思いますので、そのあたりを精査しながらの地域連携がよいのではないかと考えています。

(西田委員長)地域連携で進めるという方向で確認をさせていただくということによろしいでしょうか。

(8番 能登委員)サッカーは但馬で中学校は3チームしかありません。すべて豊岡市内です。あとクラブチームが3チームほどあります。そのためサッカーなどはクラブチーム化したいという教員の声も聞いています。種目によっては地域クラブの立ち上げが可能なものが出てくるかなと思います。先ほど、文化・スポーツ振興課の方から種目によって偏りがあるという話がありましたので、できるところはやっていく、種目によってはその可能性もあるのかなと思います。

(西田委員長)サッカーが地域クラブになるということは、学校の部活動のサッカーはどこもやめてしまって、豊岡市で1つのサッカークラブをつくるというイメージでしょうか。

(8番 能登委員)詳しいことは何も決まっていますが、公立ではサッカー部は南北中しかありません。北中の人数が少ない時期がありましたので、もう合同でチームを組もうかという話も顧問同士でありました。教員の兼職兼業の問題や外部コーチ・指導者の問題など、まだまだいろいろな課題がありま

すので、ぼんやりした方向性ですが、そのような意見があったということです。

(西田委員長) まずは休日の在り方について協議を進めていって、平日のことについてはその後という流れでお願いします。

(11番 原田委員) 生徒会の子どもたちの意見にもありましたが、部活動の数が少なくて選べないとか、顧問の先生の専門性がないだとか、それらの問題を解決する話が出てこないのですが、もうすでに大会にはクラブチームからも出られるということは中体連から示されています。それは市内の中学校の一部で可能なのか、全中学校でできるのか、その議論は置いといてなのかという疑問があります。それがどの中学校でも許されるのであれば、選択制の問題はクリアしているのかなと思います。大会に出場するという点について、クラブチームの在り方をどう考えておられるのかという疑問があります。全中の大会でもクラブチームが優勝していたところがあります。本気でやるというのであれば、クラブチームでやるということをして市内どの中学校でも許されるのであれば、1つそれはそれとして置いておいて、いまの議論は休日どうするということに視点を置くのであれば、地域的には③-1しかないのかなと思います。③-1に賛成なのですが、市内の中学校がクラブチームをどう扱うかについて、また別途整理ができたらいいなと思います。

(西田委員長) 合同部活動については(2)の後の方で、課題などを出していただけたらと思います。

(1)の休日における地域連携・地域移行については、今の学校やPTAの話からして、学校部活動の地域連携、下の③-1や③-2から進めるということによろしいでしょうか。

特に異議はありませんので、その方向で進めていきます。

(2) 人材バンクの立ち上げと合同部活動について

(西田委員長) 人材バンクの立ち上げと合同部活動について事務局からの説明をお願いします。

(事務局) 資料10のスライドです。指導者を学校部活動に配置することについて、今は6名の指導者さんにお世話になっていますが、学校と地域とのつながり、管理職と地域のつながりで指導員さんを確保しています。しかし、これが市内全体の大きな動きとなると、いまのやり方ではとても無理だろうと思います。そこで事務局で人材バンクを立ち上げて、そこに登録していただいた方を学校に派遣するというかたちにせざるを得ないのかなと思います。これについての課題や時期、募集、人集めについて、皆様のお考えをお聞かせください。その際にイメージを持っていただくために別資料を用意しています。資料①②は本市のものです。指導員の設置要領、労働条件通知書です。三木市が指導員を公募していますのでその関係資料、神戸市の指導員募集のチラシも資料としています。それらを参考にしながら、お考えを出していただけたらと思います。

(西田委員長) まず人材バンクのことについてお願いします。資料も見ながらお願いします。スライドの11を見ると、指導員が6名いる中で、特別支援教育支援員という方が2名おられます。この方は具体的にはどのような方なのか教えてください。

(事務局) 市の会計年度職員になりまして、学習や生活に支援が必要な児童生徒に対して、支援を行う職員です。1日7時間、週5日間の勤務で、学校の教職員として先生方とともに指導ではなく支援にあたっていただいている方です。市内には50数名いらっしゃって、特別支援教育支援員としての勤務が終わってから、部活動指導員をしていただいています。

(10番 田中委員) 他の市ではこの人材バンクというやり方で指導員が確保できているのでしょうか。

(事務局) 我々もまだ情報が十分ではないです。同じような地方のまちの状況は掴めていないので、但馬・丹波の合同連絡会で聞いてみたいと思っています。ただ、いまのように教育関係者だけの人脈に頼っている状況では限界があるのだろうなと思っています、公募することで少しでも人を集めたいということです。

(嶋教育長) 県が部活動指導員の人材バンクを作っていますが、阪神間がほとんどで但馬などはほとんどなかった。本当は文化・スポーツ団体から指導者を派遣していただければいいのですが、前回の委員会の記録を見ると、スポーツクラブ21の清水委員からは趣味の延長で活動している方が多いので指導者派遣はなかなか難しい、中田委員からはスポーツ推進委員は50人ほどいるけれど専門性があるって選ばれている人はそれほどいない、美術についても高齢化が進んでいるということでした。それぞれの状況があって難しいので公募しなければいけないということになるのですが、一般公募をしてやりますよと言ってくれた人がみんな指導員としてできるかどうか。特別支援教育支援員の方は学校の状況をよく知っているし、子どもたちの対応の仕方もよく分かりますよ、と担保ができています。教員OBもそうです。西中の卓球部の方は以前からボランティアで指導をしていただいていたので、学校のことをよく分かっておられる。このようにそれなりの根拠をもってお願いをしているのですが、一般公募をしたときに、気合と根性だ、勝利至上主義だとなってしまうと、学校も生徒も困ってしまいます。そのようなトラブルが学校に持ち込まれて生徒の人間関係が悪くなるのが過去に何度もあったので、選考はしなくてはいけません。部活動は平日と休日の活動日数や活動時間がきちんときまっています、それを守って活動しています。けれども土日も1日中練習をしている団体もあるので、指導者がどのような考えを持っているのかなど、選考をして許可を出すようなものにしていかなければいけないと思っています。もう1つは専門職大学の学生です。来年いよいよ4年生までが在籍するようになります。もしかしたら時間的に余裕が出てくるかもしれません。この前の議会の一般質問でも大学生を使ったらいいのではないかという意見をいただきましたので、大学の地域連携の方に相談をしながら進めていければと考えています。一般公募しかないのですが、そのあたりの課題があるということを確認していただければと思います。

(6番 中井委員) 生徒さんが、学校の先生と外部から指導していただく方の指導、方針の違いに不安を感じておられることはもっともだと思います。一般で活動している人たちは、自分たちが学生だった頃の知識や経験をもとにふだん積み重ねているので、それといま先生方が指導しておられる最新のやり方では、大きな差があると思います。その差を埋めるための講習会を実施していただけるようなシステムがあれば、人材バンクに登録するハードルが下がると思います。指導にあたる人に知識と技術を与えていただく講習会のようなシステムがあれば、こちらとしても団員に声をかけやすいです。一般の人

が学校に指導に入りやすくするためのサポートを市の方でしていただけるのであれば、ありがたいと思います。

(原田文化・スポーツ振興課長) 公募するとなると、そのような配慮は当然必要だと思います。指導される方にも同じような不安はあると思いますので、これからこの検討委員会で議論は深まっていくと思いますが、当然想定されている動きではないかと考えています。

(9番 岩井委員) この人材バンクについて、教員からもどれだけ人がいるのかなという声は聞かれます。そのような調査をする必要もあるかと思しますので、時期としてはできるだけ早く進めていくのがよいのかなと思います。

(西田委員長) 資料の5に神戸市が、部活動指導員を募集しているチラシがあります。2行目に部活動の指導にあたっては教育委員会、事務局主催の研修会があります、という説明があります。このような募集の方法をどうするのか、今後決めていくことになるかと思えます。豊岡市は人材バンクをつくってやっていくということを前回の会議でも確認していただいていますので、いつ頃からやっていくのか事務局はどのように考えていますか。

(事務局) 公募をしていくという前提で、要領や方法、チラシ等の内容を詰めていかなければいけません。骨格は事務局で作って検討委員会にお示しして、皆さんのご意見をいただくことになるのかなと思います。それが固まっていくのが来年度の初めくらいかなと考えています。先ほどもありましたように市内全体で一斉にではなくモデル校のようなものを作ってということになるかと思えます。

(西田委員長) 来年の4月以降に人材バンクを運営していく募集を始めていくというイメージで、事務局でたたき台を作っていただいて皆さんで協議していただくということによろしいでしょうか。

(2番 清水委員) 内容が決まったら、団体の皆さんで話をしてもらう方がいいのかなと思います。突然そのような話が出てくるのではなく。

(事務局) それぞれの団体の中で、このような動きがあるようだから協力できる人はお願いしますというようなことは周知していただけたらありがたいです。

(西田委員) それでは人材バンクの募集については来年度の4月以降に始める、要領等については事務局に作っていただくということで進めてよろしいでしょうか。特に異議はありませんのでそのように進めていきます。次に合同部活動について皆さんから質問や意見がございませんか。

(10番 田中委員) 一部で合同チームが作られていると、先ほど能登先生からありました。私たち保護者の立場からすると、全ての生徒たちが好きな部活動に挑戦できるという状況が一番望ましいことです。③-1だとどうしても偏ってしまって学校によっては野球をやりたいのにできないという生徒が出てし

まいます。③-2にした場合は平日の移動など、生徒にも先生にも負担が増してしまうのかなと思います。

(西田委員長) 休日の部活動の在り方ということで、方向性を今決めていただきましたので、合同部活動についてはまたいろいろところで話をさせていただくということでよろしいでしょうか。

(3) 地域連携に向けた課題について

(西田委員長) 次の(3) 地域連携に向けた課題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 人材バンクを立ち上げて、関係団体の皆さんの協力を得ながら指導者を確保していくとなるとこんな課題がある、こんな方法をすればよいのではないかというご意見をいただけたらと思います。これまでの委員会で指導者の確保という点でいただいた意見としては、「確保はとても難しい」、「市内でも地区によって差が出るだろう」、「いきなり地域にお願いすることは難しく指導員を増やしていくことが大事であろう」というものがありました。これらの意見も踏まえながら、ご意見をいただけたらと思います。場所の確保については、地域連携で指導者の方に入っていくとなると学校になるのかなと思います。

(西田委員長) 指導者の量や質のことがあるかと思います。皆さんの意見をお願いします。

(5番 土井委員) 資料7ページ、活動場所の確保にある吹奏楽団体が2~3できてというところが私はイメージしにくいのですが教えてください。

(事務局) この意見は地域移行として進んだ段階での話になるかと思います。いま市内の各中学校にある吹奏楽部がなくなって、市内に吹奏楽の地域クラブが2~3できてそこに生徒が通うという、かなり進んだ段階での話になります。準備委員会が出た意見です。

(文化・スポーツ振興課 上田係長) 序盤に委員長から総合型スポーツクラブについてご質問をいただいたときに間違っことを言っていましたので訂正をさせていただきます。総合型スポーツクラブというのは、いま豊岡市内にあるスポーツクラブ21が全て該当することになります。だれでもいつでもスポーツができるという仕組みを整えたものを県が補助をして作ったのが総合型スポーツクラブということです。そういったスポーツクラブがこれからも継続していくために登録認証制度というものが令和4年度にできました。それが先ほど申し上げたクラブマネージャーが必要だとか、ガバナンスコードを備えたという団体が市内にはないということで、総合型地域スポーツクラブというのは市内にもたくさんあるということになります。認証を受けたり登録をしたりしているところはないということです。訂正をさせていただきます。

(西田委員長) 前回欠席していましたので、豊岡市スポーツ協会の関係についてお話しさせていただきます。スポーツ協会では競技別の代表者会議を開いていまして、県の会議で出た内容などを説明してい

ます。地域移行についても情報提供をしていますが、競技別協会の代表の皆さんはなかなか結論が出せないというのが現状です。スポーツ協会に属しておられる皆さんは、ほぼ中学校部活動の経験者です。今社会人で活動されている方は自分の競技を優先されている中で、指導というのは別だという考え方で、部活動の指導に行けるといえる方は、自分の競技生活を終えられた方になります。自分が指導者としていくときにはある程度責任を持って行きたいという気持ちがあるので、すぐに手を挙げる方は少ないと感じています。日本スポーツ協会のコーチの資格を取っている方はそれなりに準備をされていて、「コーチとして行きますよ」という方は少数おられます。また、先ほどから話が出ている地域で活動している硬式野球、サッカー、水泳、陸上、バレーボールなどはスポーツ協会には属しておられない方が多いので、実態が分からない状況です。コーチの資格もこれからできるだけ多くの人に取っていただきたいなと思っていて、市の教育委員会やスポーツ協会などが費用の支援とか講習会を但馬で開くなどの手立てをする必要があると感じています。通信教育でペーパーの試験を受けた後に実技の試験があり、卓球の場合だとペーパー試験を合格した後に大阪まで行って実技指導を受けなくてはならないです。資格の更新についても種目によって違いがあって、4年に1回講習を受ければいいものや頻繁に講習を受けなくてはならないものもあります。野球やテニスなどは怪我や故障のことがあるので、それなりの講習を受けなくてはならないので、そのあたりの援助ができればいいかなとも思います。

(4番 加藤委員) 美術の関係では、子どもを指導できる資格というと教員免許くらいなのかなと思います。趣味の延長でやっていて自分の制作だけで忙しい、仕事の合間を縫って制作するのが忙しい、土日せっかくの休みに制作しないといけないのにということがあります。会長をしているので会員が集まった時に地域移行のこと話して、協力してくれる人はいるかと聞きました。ほとんど高齢者ですからあまり反応はなかったのですが、ある人が言ったのが「条件次第だな」と。その条件とはお金のことかなと思います。人材バンクについて考えていたのですが、一般公募をしてもなかなか応募がないのが実態かなと思います。三木市の募集要項がありましたが、三木市の人口はほぼ豊岡市と同じくらいですね。三木市の方が若い人は多いのかなと思います。どうだったのかなと。なかなか一般の人が応募してこないと思うので、どうしたらいいのかなと考えました。割とプロっぽい人に頼むとたぶん勝利至上主義でガンガンやっていくだろうと。それを喜ぶ親もいれば、うちの子は楽しんだらいいのにという親もいます。中学校の部活はそういう感じですよ。勝つためにやっているのだけど、下手な子もやりがいがある、仲間とともにやっていくというのが、中学校の部活であって、専門的な人が入って混ぜかされたら学校にとっては大きな痛手であって、顧問は大変な労力を使ってしまうことになります。ですから部活動の在り方について十分に知った人が応募してくれたらいいのですが、なかなかそうはいかない。中学校の教員は何だかの部活を指導して退職するので、退職した中学校教員はなにかの部活の指導はできます。例えば、能登先生はバレーボールの指導ができるとか。そういうノウハウを持った人が休日の部活動に関わることが一番スムーズにできし、人材も確保しやすいように思います。学校でがんばりタイムというものがあって、この指導者も教員を退職した人であれば上手に指導をしているのではないかなと思います。まずは、中学校の教員を退職した人に声をかけて、人材登録をすれば多少はいいのではないかなと思います。

(10番 田中委員) 豊岡市において先日某学習塾の講師が逮捕されるという事件がありました。保

護者としては体罰、ハラスメントという問題が心配です。生徒を守るという観点から研修は必須としていただきたいです。

部活動への熱意、知識、技術、生徒の健全な育成についても研修内容に盛り込んでいただきたいです。保護者は生徒の安全安心を第1に考えていますのでよろしくお願いします。

(3番 中田委員) 部活動は学校のものなので、そこに応募してくる方も先生と一緒に動きやすい人でなければいけないと思います。逆に先生が困るような人が来たら働き方改革どころか、先生が自分で指導している方がまだ楽で、何をしているのか分からないことになります。それをすごく心配します。イメージとしては、今の学校がどういうものなのかを分かっておられる方が入られた方が当然いいとは思いますが、地域の中でそれほどの人が何人おられるのか分かりません。できれば、若いお兄さんやお姉さんのような方が入ってこられるのがいいのだろうけど、なかなかイメージできないので、いま指導員として入っておられる方のようにうまくいっている例が増えてくるといいのかなと思います。公募はスケジュールを見るととにかく早くしなくてはいけないなと思います。どれだけ集まるかは分かりませんが、いい人が集まって先生方の負担が減ればいいなと思っています。

(西田委員長) 皆さん、他に意見はございませんか。それでは、委員会の今後のスケジュールについて説明をお願いします。

(事務局) 今後のスケジュールですが、資料右下にある視点について検討を進めていきます。研修の実施、教員と指導者との連携、送迎も含めた費用負担などの課題を1つずつ潰していくことになります。このような話し合いを11月、12月とさせていただきます。

(西田委員長) 委員会のスケジュールについてよろしいでしょうか。それでは予定しておりました協議は終わります。進行を事務局に戻します。

(事務局) 西田委員長、ありがとうございます。委員の皆様、熱心な協議をありがとうございました。全体を通していかがですか。

(嶋教育長) 出た課題の中で研修の必要性や資格取得にかかる費用のことなどはお金が関係してきます。これらについては10月17日に県の連絡協議会があるので、そこで担当者が県に伝えるようにします。お金がないとできないようなことがたくさん出ましたので、県と調整しながら状況を見ながら次に進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

5 連絡依頼事項

(1) 旅費等について

(2) 第3回の日程調整について

6 閉会(17時)